

学校マネジメント（目標達成マネジメントツールの一層の活用：検証改善サイクルの確立）

【事例】豊後大野市立大野中学校：生徒数62名

好事例のポイント

- ・学校評価の4点セットの重点的取組について、「4点セット自己評価改善シート」を作成し、組織的な検証改善が実施されている。
- ・「4点セット目標管理シート一覧表」を作成し、主要主任を中心とした進捗管理を実施。

学校評価の4点セット

(様式1) 豊後大野市立大野中学校 平成30年度 学校評価の4点セット (第1回計画・第1回評価 第2回計)

学校の教育目標：互いを思いやり 自ら考え 主体的に行動する生徒の育成

重点目標	達成指標	重点的取組	重点的取組に係る具体的な取組指標	担当	確認・検証・改善 (8月)
確かな学力の定着	○各教科の定期テスト、評価テスト、ワークシートにおいて記述式問題の無回答者の割合を20%未満にする。	学校 ○資料から必要な情報を読み取り、根拠を明らかにする指導方法を工夫する。	○各教科で資料から必要な情報を読み取り、まとめ、表現する活動を単元に1回以上実践する。	教務主任	90% ・すべての教科で実践できた。単元によっては実施できない場合もあった。

右の「検証・改善の流れ」にそって、各教科(個人)が各学年毎に、詳細で丁寧な検証⇒授業改善を実施している。

学校評価 教科経営4点セット自己評価・改善シート

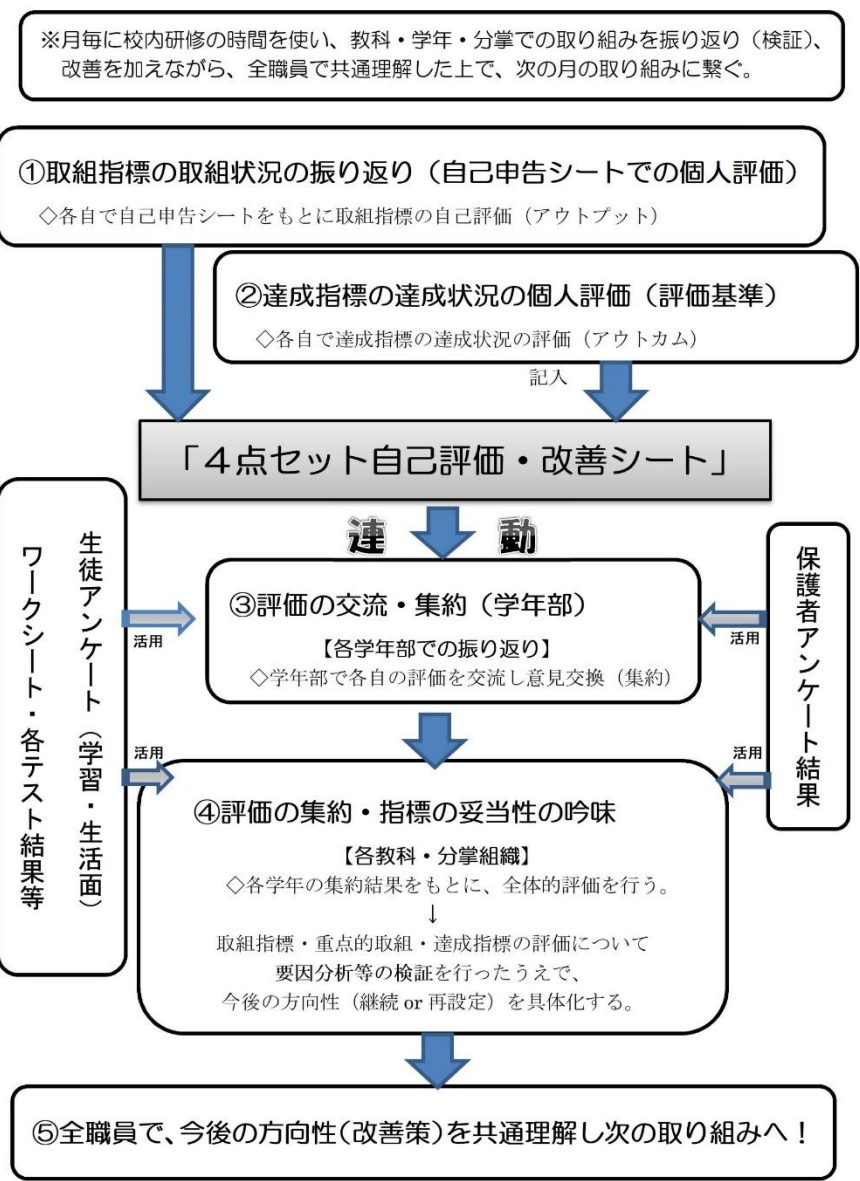
重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
確かな学力の定着	各教科の定期テスト、評価テスト、ワークシートにおいて記述式問題の無回答者の割合を20%未満にする。	資料から必要な情報を読み取り、根拠を明らかにする指導方法を工夫する。	各教科で資料から必要な情報を読み取り、まとめ、表現する活動を単元に1回以上実践する。

教科	学年	①取組指標評価	無解人数	%	無解答者名(生徒名)	②達成指標評価	④検証(指標の妥当性)	⑤改善策(取組や指標の改善)無解答者に対する今後の対応
国語	1	A	0	0.0				・条件に添った短作文を構えず、活用プリントの継続
	2	C	7	29.2		B	○	・活用プリントの継続 ・書き方の指導(パターン)
	3	B	0	0				無解答はなくても質問の多い。条件に添った短作文
社会	1	A	3	14.3				授業の中で、条件を動をとり入れる。
	2	B	5	20.8		C	○	記述問題や基礎問題
	3	B	7	43.8				授業の中で自分のことと結びつける活動に毎時
数学	1	B	0	0.0				
	2	C	9	37.5		C	○	穴埋め形式の問題を参考問題を朝自習や週末課題
	3	B	6	37.5				1問題のみで、見直しを考えたグループ活動でお互いの証明問題の反復練習(証)
数学	1	B	0	0.0				
	2	B	9	37.5		C	○	穴埋め形式の問題を参考問題を朝自習や週末課題
	3	B	6	37.5				1問題のみで、見直しを考えたグループ活動でお互いの証明問題の反復練習(証明問題)

ここには、具体的な生徒名が入る。

学校自己評価 検証・改善の流れ

豊後大野市立大野中学校



4点セット目標管理シート一覧表

組織	役割分担	目標項目(何を)	具体的取組(いつどこを)	レベル	アワード	アワード評価	達成された姿(達成イメージ)	進捗状況に対する進捗状況・取り組み実績	アワード評価
大野本部	学力向上部会	確かな学力の定着を目指す	・授業期間5分間の小テストを毎時、単元終了後の確認テストを実施し、4割未満の生徒に週一回個別指導を行う。 ・週末課題で活用のプリントに貼り残らせない。 ・単元テスト、定期テスト等で活用力を開く問題を出題する。	H	60		・定期テスト、評価テスト等得点の4割未満20%以下におさえる。 ・記述問題の無回答者を20%以下におさえる。		
		互いの立場や考えを大事にし、支え合うことができる集団づくりを目指す。	・学期に1回以上行事や体験活動を通して学んだことや互いの思いや考えを述べ合う機会を設定する。 ・学期に1回以上教育相談を実施する。	M	40		・学校生活アンケートで「充実している」と肯定的に回答する生徒を80%以上にする。		
大野二部	豊かな心育部会	入試に対応できる学力をつける	家庭学習をさせ、復習プリントなど定着化させる 小テスト(確認テスト)の実施 グループ(ペア)学習での学び合いの場の設定 個別指導が必要な生徒への支援	M	60		定期テストでの無回答者を20%以下にする		
		互いを認め合い、支え合う集団づくり	・月に1度はグループエンカウンターなどの学級活動を行う。 ・学期に1回以上の教育相談を実施する。	M	40		・学校生活アンケートで肯定的に回答する生徒を80%以上にする。		
大野三部	豊かな心育部会	基礎基本の定着	毎時前、前時の課題について振り返り、自分のことばで表現するべし活動に積極的に参加する。	H	50		定期テストで記述式問題の無回答者の割合を30%未満にする		
		基本的な人間関係づくり	1日で、会う人全員に自然にあいさつをする。(先手あいさつの励行) 生徒会専門部のあいさつ運動に積極的に参加する。	M	50		心を込めた「インコ挨拶」が70%以上できる		
大野四部	豊かな心育部会	健康診断や健康観察により、自分の健康状態に関心をもち、健康的な生活習慣の定着を図る。	・健康診断の事後処置を速やかに行う。 ・健康診断や健康観察などを通して個別指導を行う。 ・事後処置を通して家庭との連携を行う。 ・保健だよりを発行する。	M	60		定期健康診断の結果を受けて自分の体に関心を向け、課題解決に向けて取り組もうとする生徒の割合を70%以上にする。		
		互いを思いやり、認め合う集団づくり	専門部(保健部)のあいさつ運動に立ち、あいさつを行う。 1日で会う人全員にあいさつできたかどうか、帰りの会で振り返り自己評価させる。	M	40		心を込めた「インコ挨拶」ができる生徒を80%以上にする。		

<評価> 評価(判定)の目安

5	目標を大幅に上回った。概ね120%以上で、期待を上回り、成果を上げた。
4	目標を完全に達成。概ね100%以上120%未満で、目標を完全達成!
3	目標をほぼ達成。概ね80%以上100%未満で、完全達成にはやや及ばず。
2	目標を下回った。概ね50%以上80%未満で、完全達成には及ばず。
1	目標を著しく下回った。概ね50%未満で、完全達成には遠く及ばず。

◇達成目標(像)に対する進捗状況や取組の客観的な成果・実績等
◇新たな課題に関する改善策・取組等
⇒次の期末自己申告シートへつなぐ。

◇毎月実施している「教科経営4点セットの自己評価・改善シート」でのふり返りが、自己申告シートでの中間申告の自己評価に連動。(定期的なふり返りが、効率的な自己評価や検証・改善につながる)
◇各自の申告シートの目標や取組指標・取組内容を各主任が理解しており、指導助言も効果的に実施できる。
◇臨時職員を評価システムに組み込むことで、組織体制づくりや人材育成の取組が推進しやすい。
◇客観的な結果による自己評価や目標の具体化がしやすい。「基礎基本の育成」⇒「読む力・書く力の育成」

2. 取組についての評価等

- (1) 全教職員が検証改善の流れを理解し、自己評価・検証改善が組織的に実施されている。
- (2) 評価の見える化を実施しており、主要主任が指導助言できる体制が整備されている。